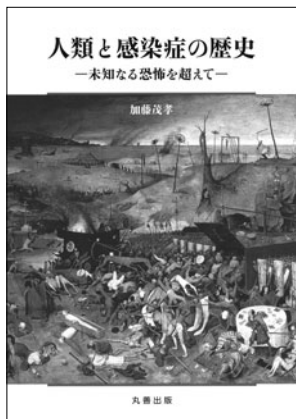


新刊書籍のご紹介

【人類と感染症の歴史 — 未知なる恐怖を超えて —】

著者：加藤茂孝



定 価：2,200円（本体2,200円＋税）

発行所：丸善出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町二丁目17

営業：電話 03-3512-3256 FAX 03-3512-3270

<http://pub.maruzen.co.jp>

「なぜ、感染症は絶えないのか？なぜ新たな感染症が出現してくるのか？人類はどのように感染症と戦って生き延びてきたのか？科学はこの見えないものへの怯えをいかに減らしてきたか？そして、我々はどこへ行くのか？」

「人類と感染症の歴史 — 未知なる恐怖を超えて —」 「序」より引用

この度、理化学研究所 新興・再興感染症研究ネットワーク推進センター 加藤茂孝先生の著書「人類と感染症の歴史 — 未知なる恐怖を超えて —」が丸善出版から刊行されました。

ご記憶に新しいと思いますが、本書は、本誌に全11回にわたって掲載された「人類と感染症との闘い—「得体の知れないものへの怯え」から「知れて安心へ」—」（第55巻（2009）9月号～第57巻（2011）6月号）を基に書き改められたものです。連載中より、読者ファンの方から、「このシリーズはいつか本にならないのか？」との問い合わせもありましたので、このたびの報に胸を躍らされている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

第1章に付けられているタイトル「人は得体の知れないものに怯える」は、人がもつ永遠の心理であり、これゆえに人類は、様々な感染症によって惹き起こされる恐怖に打ちのめされ、ある時は叶わぬまでも闘い、近世に至ってやっと科学の力をもってこれを克服し何とか生き抜いてこれました。本書のカバーに使われているピーテル・ブリューゲルの「死の勝利（The Triumph of Death）」

もまた、本書のペストの章に記されたように、感染症の恐怖を象徴するに相応しい作品です。

本書カバーの折り返し部分に「13,000年前、家畜化が始まり、その家畜から感染症が人類に入った」とあります。以来、人類の歴史に大きな影響をもたらしてきた「天然痘」「ペスト」「ポリオ」「結核」「麻疹」「風疹」「インフルエンザ」「ウエストナイルウイルス」といった感染症を取り上げ、様々なエピソードを通じて、その時代に及ぼした大きな社会・経済・文化的影響、そして人々の揺れ動く心理をも捉えながら、人類と感染症の歴史を詳しく紐解いています。

また、時代や国境を超えて取り揃えられた貴重な資料の数々も本書の大きな魅力であります。

本記事の準備を進めているうちに初版刷が売り切れ、二版の印刷準備中ときました。発行部数には限りがあるようですが、感染症・歴史・文学・危機管理にご興味のある方々に、ご愛読書としてお手元に置かれることをお勧めいたします。

モダンメディア編集室